

登録コード	E4613900	開講年度	2026				
授業科目	公民教育指導法					担当教員	松本 康
英文授業名	Civics Education					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・3時限	対象学生	
講義室	教育N 2 0 1 講義室	授業形態	講義	遠隔授業科目		備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				1. 中等社会科の意義と歴史について理解できること。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				2. 「公民」のカリキュラムと授業作りの方法について理解できること。 3. 単元指導案を作れるようになること。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	社会科教育は子どもの社会認識を育てることによって、市民としての資質（公民的資質）を育てることを目標とする教科である。「公民」は高等学校における公民的資質の育成の中核を担う役割を持っている。この授業では「公民」の指導が可能となることをめざし、「公民」の目標、内容、歴史と実践の動向、評価、授業づくりの方法について学ぶ。						
(5)授業計画	第 1 回：ガイダンス・公民の経験を振り返る(作業) 第 2 回：初期社会科と公民的分野 第 3 回：公民の目標とカリキュラム 公民的資質 第 4 回：公民の目標とカリキュラム 教育法規と社会科 第 5 回：公民の内容と方法 1（公共：学習指導要領） 第 6 回：公民の内容と方法 1（公共：教科書と学習活動） 第 7 回：公民の内容と方法 1（公共 活動：アフーマティブ・アクション他） 第 8 回：公民の授業作り 1（模擬授業：公共） 第 9 回：公民の内容と方法 2（倫理 1：学習指導要領） 第10 回：公民の内容と方法 2（倫理 2 活動：ディベート） 第11回：公民の授業作り 2（模擬授業：倫理） 第12回：公民の内容と方法 3（政治・経済 1 学習指導要領） 第13回：公民の内容と方法 3（政治・経済 2 活動：模擬裁判） 第14回：公民の授業作り 3（模擬授業：政治経済） 授業アンケート						
(6)成績評価の方法	ポートフォリオ（毎回の感想，30%）、授業のねらい1～3に対応する小レポート（20%）、各科目の学習指導案(30%)，および最終レポート（20%），によって評価する。オリジナルの単元指導案の作成を最終レポートとする。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	学習指導案と最終レポート（単元指導案）の評価規準は次の通り。 （ ）テーマの設定が適切である。（ ）テーマに沿った教材研究ができている。（ ）指定された形式に沿って指導案が作成されている、（ ）適切な単元構成ができている。（ ）現場の実践として通用する。 (i)から（ ）までの項目を満たし、かつオリジナリティーがあれば「卓越している」。(i)から（ ）までの5項目が満たされていれば「かなり上にある」、4項目を満たしていれば「やや上にある」、3項目を満たしていれば「その水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	・事前事後学習の課題はeALPSに提示する。 ・小レポート「高校で経験した公民」のWS（ワークシート）を第1回に作成・検討する。 ・テキスト（学習指導要領解説公民編）は第3回までに入手しておくこと。 ・第8,11,14回は模擬授業（公共，倫理，政治・経済）を行うので、本時指導案を作成してアップロードしておくこと。 ・この授業は90時間の学修を必要とする内容であり，60時間以上の時間外学習が必要。						
(9)履修上の注意	・社会科の指導法科目（初等社会科指導法基礎，中等社会科指導法基礎のいずれか）を履修した後に受講すること。3年次以降の履修が望ましい。 ・哲学、倫理学、法律学、政治学、経済学、社会学に関する基礎科目をできるだけ履修しておくこと ・出席はeALPSに感想を記入することでカウントする。ポートフォリオとして評価材料に使用するので毎回100～200字程度で書くこと。 ・教育実習等で欠席した場合，別に課題を指示する。						
(10)質問，相談への対応及び連絡先	メールにて対応する。matsu_y@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編（平成30年告示）』東京書籍，2019年。 ・文部科学省HPからPDFファイルのDLも可能。 http://www.mext.go.jp/						
【参考文献】	・日本社会科教育学会編『社会科教育事典（第3版）』ぎょうせい,2024年						

【参考文献】	・日本公民教育学会編『公民教育事典』第一学習社、2009年 ・文部省(著)/ 西田亮介(編)『民主主義 一九四八 - 五三 中学・高校社会科教科書エッセンス復刻版(幻冬舎新書)』幻冬舎、2016年 ・小林昌平『その悩み、哲学者がすでに答えを出しています』文響社、2018年 ・総務省・文部科学省『私たちが拓く日本の未来 - 有権者として求められる力を身につけるために - 』（高校生向け副教材） 総務省HP http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/senkyo/senkyo_nenrei/01.htm ・電子政府の総合窓口e-Gov http://www.e-gov.go.jp/ ・国土地理院(電子国土Web) http://www.gsi.go.jp/ ・国立歴史民俗博物館 https://www.rekihaku.ac.jp/ ・国立民族学博物館 http://www.minpaku.ac.jp/ ・東京国立博物館 http://www.tnm.jp/ ・長野県立歴史館 http://www.npmh.net/ ・長野市立博物館 http://www.city.nagano.nagano.jp/museum/ ・中学校・高等学校で使用した教科書や参考書も参照すること。
--------	--